

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第 1 面）

産業廃棄物処理計画書

令和7年6月11日

千葉県知事
熊谷 俊人 殿

提出者 276-0046
住 所 千葉県八千代市大和田新田130
法人名 興真乳業株式会社
代表者 古谷 真一
（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）
電話番号 047-450-6420

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	興真乳業株式会社 八千代事業所		
事業場の所在地	千葉県八千代市大和田新田130		
計画期間	令和7年4月1日	から	令和8年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項			
①事業の種類	大分類：	製造業	中分類： 食料品製造業
②事業の規模	売上高 12,837百万円		
③従業員数	111名（正社員72名、常勤従業員39名）		
④産業廃棄物の一連の処理の工程	排水処理工程→汚泥→自社で脱水→醗酵→堆肥化 製造工程→廃プラスチック→破碎→梱包・ラッピング→焼却 茶・コーヒー抽出工程→動植物残渣→醗酵→堆肥化 混合廃棄物→分別→切断・破碎・圧縮		

（日本産業規格 A列4番）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図) 別紙「産業廃棄物管理組織図」を参照願います。			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類
	排出量	2222.7 t	11.4 t
	(これまでに実施した取組) ・生産効率の向上による排水負荷の軽減。 ・廃液回収による排水負荷の軽減。 ・工場排原水の中和による有機微生物の活性化。 ・分別廃棄の徹底による廃棄物の減量化と資源化。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類
	排出量	2520 t	13.4 t
	(今後実施する予定の取組) ・生産効率向上（液ロス削減）による排水負荷の軽減。 ・前年度実施事項の継続維持。		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・プラスチック類：素材別分別によるリサイクル・資源化の促進。 ・動植物性残さ：抽出工程で排出される抽出粕を種類ごとに分別することで、リサイクル・資源化の促進。		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・現状の分別廃棄を維持継続する。		

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	1889.3 t	0 t
	(これまでに実施した取組) ・汚泥の脱水機での脱水により、排出量を減量化。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	2142 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) ・脱水機の定期整備を実施し、脱水機の基本性能を維持する。		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類
	全 処 理 委 託 量	333.4 t	11.4 t
	優良認定処理業者への処理委託量	0 t	0 t
	再生利用業者への処理委託量	333.4 t	0 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	10.1 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
	・サーマルリサイクル、資源化を前提にした処分業者の選択。		

(第5面)

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類
	全 処 理 委 託 量	378 t	13.4 t
	優良認定処理業者への処理委託量	0 t	0 t
	再生利用業者への処理委託量	378 t	0 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	12.1 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) ・生産効率向上による排水負荷の軽減。 ・優良認定業者の利用の推進。		
	※事務処理欄		

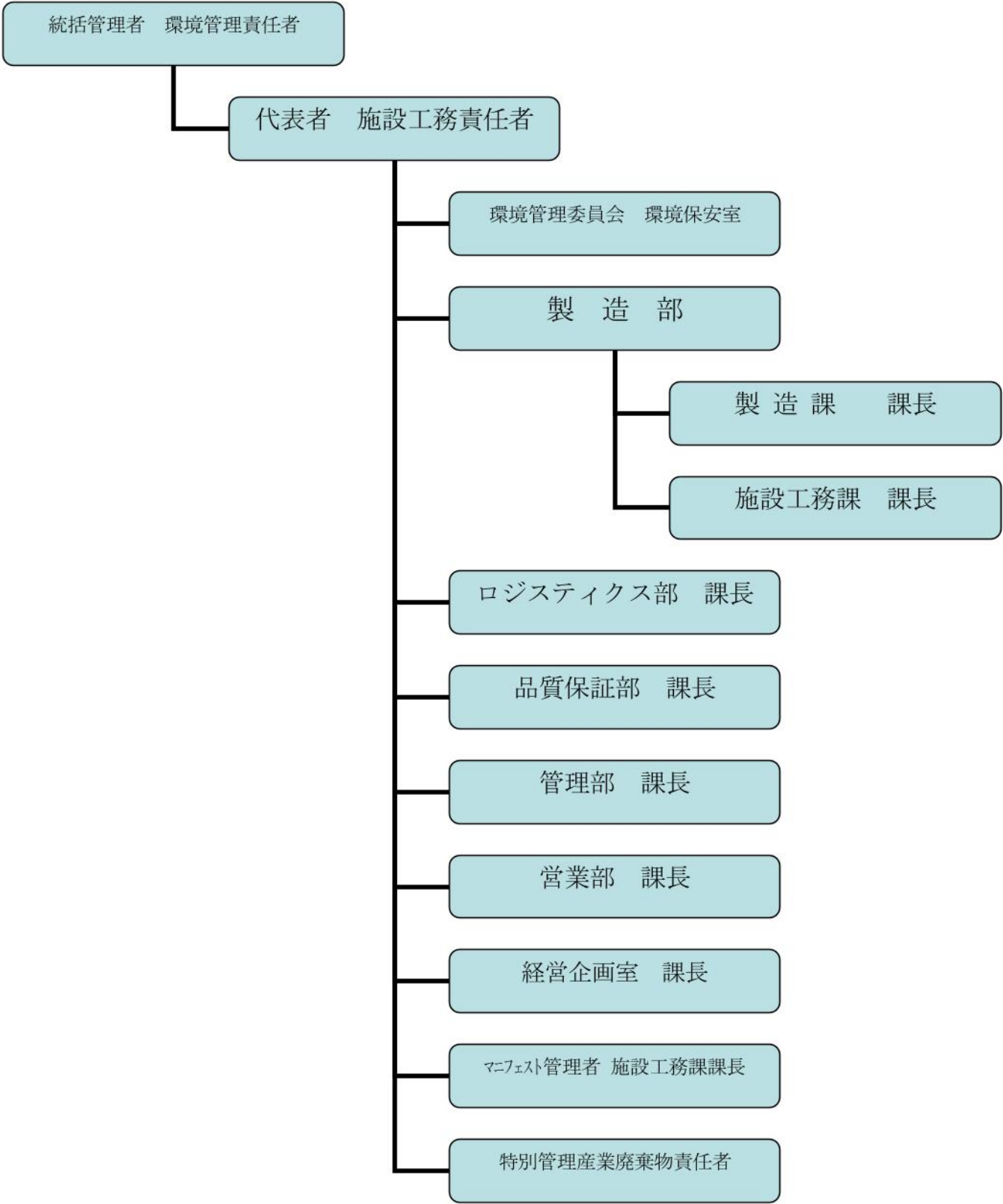
(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

廃棄物管理組織図

2 0 2 4 年 4 月 1 日 現 在



セルが足りない場合は右側に追加をお願いします。

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項									
①現状	【前年度（令和6年度）実績】								
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	管理型混合廃棄物						
	排 出 量	397.8 t	2.6 t	t	t	t	t	t	t
②計画	【目標】								
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	管理型混合廃棄物	ガラス・コンクリート・陶磁器くず					
	排 出 量	456 t	1.7 t	0.7 t	t	t	t	t	t
自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項									
①現状	【前年度（令和6年度）実績】								
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	管理型混合廃棄物						
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t	t	t	t	t	t	t
	【目標】								
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	管理型混合廃棄物	ガラス・コンクリート・陶磁器くず					
②計画	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	t	t	t	t	t
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項									
①現状	【前年度（令和6年度）実績】								
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	管理型混合廃棄物						
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t	t	t	t	t	t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	0 t	0 t	t	t	t	t	t	t
	【目標】								
②計画	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	管理型混合廃棄物	ガラス・コンクリート・陶磁器くず					
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の種類	0 t	0 t	0 t	t	t	t	t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	t	t	t	t	t

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項									
①現状	【前年度（令和6年度）実績】								
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	管理型混合廃棄物						
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t	t	t	t	t	t	t
②計画	【目標】								
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	管理型混合廃棄物	ガラス・コンクリート・陶磁器くず					
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	t	t	t	t	t
産業廃棄物の処理の委託に関する事項									
①現状	【前年度（令和6年度）実績】								
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	管理型混合廃棄物						
	全処理委託量	397.8 t	2.6 t	t	t	t	t	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	0 t	0 t	t	t	t	t	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	397.8 t	0 t	t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t	t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t	t	t	t	t	t	t
②計画	【目標】								
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	管理型混合廃棄物	ガラス・コンクリート・陶磁器くず					
	全処理委託量	456 t	1.7 t	0.7 t	t	t	t	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	t	t	t	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	456 t	0 t	0 t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	t	t	t	t	t